

クールビズが始まり、暦の上でももう夏ですが、五月の爽やかな季節はあっけなく過ぎてしまいそうです。現在会員登録数 1,440 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は6月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 45

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● ネットで体験! 「ドキドキ絵本づくり for Kids」ウェブサイト開設
子どもが自分で絵本を作れるウェブサイトを開設しました。佐々木マキさんの楽しいキャラクターがご案内します。ぜひサイトで体験してください。

・「絵本とは?」 遊びながらナットク 絵本の構成要素を学びます。

・「絵本をつくる」 いろいろな絵本の作り方を紹介 体験できます。

・「プロにまなぶ」 プロの絵本作家の絵本づくりワークショップを体験

・「みんなの作品」 見るだけでなく、自分の作品を公開することもできます。

※ 平成 25 年度子どもゆめ基金 教材開発・普及助成活動

<http://www.justice.co.jp/dokidoki/>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『赤毛のアン』 モンゴメリ/著 村岡花子/訳 新潮文庫 新潮社 1954年7月

対象年齢：小学校高学年以上 * 現在出版されているのは2008年2月改訳

あらすじ：孤児で11歳のアン・シャーリーは男の子を欲しがっていたプリンスエドワード島のマシュウとマリラ兄妹の元へ送られ、そこで暮らすことになる。空想好きでかんしゃく持ちのアンは数々の失敗を繰り返しながらも、近所のダイアナと親友になり、アンの赤毛を「にんじん」とからかったギルバートと学業で張り合い続け、16歳でクイーン学院の奨学金を得る。

Y：今回は今、話題の『赤毛のアン』を再読することにしました。子どもの頃読んだ時は、アンがギルバートの頭を石版で殴ったところや、ダイアナをいちご水で酔っぱらわせたところなどが強く印象に残っています。

O：子どもの時の印象は強いですね。私は1980年2月に雑誌「日本児童文学」（「赤毛のアン：古典を考える-7」）で「『赤毛のアン』論—“わしはね、一ダースの男の子よりもお前がいいよ、アン”」という一文を書きました。その時は、標題のマシュウの言葉に象徴されるように、作者が男性より女性の方が優れているという考えを作品化していることに注目して、女子が読むと心地よく、女子への応援歌だと論じました。

Y：ギルバートとの学業の競争で最終的にアンが勝つことも含めて日本で「赤毛のアン」が人気であり続けてきたことの一因だと思います。

O：今回興味を持ったのは、この作品の中の文学性です。作品の中には、テニソンをはじめとする19世紀ロマン派の詩がそのまま出てくるのみでなく、聖書、モンゴメリが読んだであろう少女小説などが想起され、それらが一体となって作品が作られていることでした。美しい情景描写にしても、それはプリンスエドワード島を写実的に描いたというよりは、過去の詩や文学の描写を使って作者の理想ともいえる風景を描写しているということが読み取れました。

Y：アンが作中で身の回りの自然をおおげさに物語化し、地の文でも風景の物語化を行っています。読者は二重に物語化された風景を楽しむことができるようになっているのですね。私は、今回、ユーモアが随所に読み取れる点がおもしろかったです。年齢を重ねるごとに興味を持つ点が変わるのが古典を再読する楽しみだと思いました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 45

その8 おはなし会の実際（3）手遊び

集中して絵本やおはなしを聞いていると、ちょっと一息つきたくなります。そんなとき、手を動かしたり、声を出したりすると、リラックスできて、あらためて次のおはなしや絵本を楽しむことができます。

このように、おはなし会における手遊びは、あくまで絵本やおはなしが楽しめる場を作るものです。ですから手遊びで盛り上げる必要はありません。静かなおはなしを聞いた後、急にみんなでバタバタと体を動かしたことによって、子どもたちの集中が切れたり、場の雰囲気壊れてしまったりしている状況を見ることがあります。

手遊びも、おはなし会の一部ですから、おはなしや絵本の内容、テーマ等と何らかの形で関わらせることによって全体にまとまりが出てくると思います。

例えば、花や木をテーマにしたおはなし会では、「小さな庭をよくたがやし

て」から始まる「小さな庭」を遊ぶことで、みんなが花や木の成長をイメージしながらおはなし会を楽しむことができるでしょう。一方、食べ物のおはなし会であれば、「メロンパンのうた」や「おべんとうばこのうた」で遊ぶこともできるでしょう。わらべうたであれば、日本語の響きがやさしいものが多く、テーマと直接関係なくても、子どもたちが落ち着いた気分になります。

また、既成の手遊びである必要もありません。雪をテーマにしたおはなし会であれば、手を広げて指を動かしながら、空から降ってきた雪をみんなで表現してみる、だれが、一番寒そうか、みんなで寒いふりをする、子どもたちに「しん しん しん しん」と言ってもらって、雪の詩を読むなど、さまざまな工夫ができると思います。おはなし会全体のイメージを大切にしておはなし会全体を考へることが必要です。そして、小学生以上の参加者に対しては、その子たちがしらけて出ていってしまわないよう特に配慮が必要です。

* 次号は「その8 おはなし会の実際(4) 終わり方」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思ひます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇 25 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

●奈良女子大学学術情報センター 所蔵資料電子画像集

<http://www.lib.nara-wu.ac.jp/nwugdb/>

本サイトは、奈良女子大学が所蔵するさまざまな資料を電子画像化したもので、「伊勢物語の世界」や「江戸時代紀行文集」「春日権現霊験記絵巻」など、全部で 14 の個別の画像データベースから構成されています。

そのうち、江戸・明治期における女性や子ども向けの教養書を集めた「女性関連資料」、明治期に同学の前身・奈良女子高等師範の附属学校で使用されていた「教育用掛図」、同じく附属小学校学習研究会が編集した月刊雑誌「伸びて行く」の電子画像などは、児童文学・児童文化にも関連が深いものといえます。

「小児必用養育艸」は、江戸期の代表的な育児書である『小児必用記』を改題したもので、元禄頃に成立したものです。近世の人口は、元禄期をピークに 3000 万人前後で一定推移したとされていますが、社会が安定するに伴い、家庭にも目が向けられるようになって寺子屋などの庶民教育や絵草紙や赤本、育児書といった読み物の刊行もさかんに行われるようになりました。こうした動きのなかで、〈半丁又は 1 丁の挿し絵は子供を中心に家族の様子が描かれる体裁〉(HP より)を持つ本書も登場してきたものと思ひれます。

また、雑誌「伸びて行く」は、大正 10 年(1921)から昭和 2 年(1927)まで、7 年にわたって刊行された児童雑誌です。子どもに〈「学習」のしかたを知らせ、奈良女子高等師範学校附属小学校の教育方法を全国に広めようという願ひを担った〉(同)学習誌ですが、清水良雄や深沢省三が絵を描き、福田正夫や白鳥省吾の童話、岡本一平の学習漫画などが掲載されており、同時期に発

行されていた「赤い鳥」の影響を感じさせるユニークな雑誌でした。全 80 冊のすべての画像が掲載されています。(J)

※次号は、一次資料データベース篇〈その 26〉の予定です。

《4》 行って来ました！

京都高島屋で開催された「生誕 120 年武井武雄の世界展」に行ってきました。故郷の長野県岡谷市以外では初めての全国巡回展ということで、岡谷市のイルフ童画館で所蔵されている約 400 点の作品が展示されています。

会場に入ると武井のナンセンス童話『ラムラム王』の主人公であるラムラム王のパネルがところどころに置かれていて、導かれるように進んでいきました。ラムラム王は、「RRR」という武井武雄のサインの由来でもあり、武井はラムラム王の生まれ変わりだと言っていたそうです。

展示作品には、水彩やクレヨンなどで描かれた色鮮やかな絵、銅版画や木版画などがあります。どの作品にも物語の世界が広がっているようで、じっくり見ていると、絵の登場人物(動物)になって、その世界へ入り込んでしまうような不思議な感じがしました。雑誌や絵本のために描かれたものだけでなく、出席カードやかかるた、おもちゃの設計図とそのおもちゃ、デザインがおしゃれな蔵書票などもありました。

いちばん見応えがあったのは、会員限定で頒布された「刊本作品」と呼ばれている本です。全部で 139 冊あり、1 作ごとに違う技法や素材を使い、文字、絵、函、印刷方法などすべてにこだわって作られたそうです。寄木細工で作られた『木魂の伝記』、ゴブラン織りの『笛を吹く城』、螺鈿で描かれた『人魚と嫦娥』、ほかにもパピルスを育てるところから始め、完成まで 4 年を費やした本や、付属のレンズを通してみたら絵が動く本など、どれも手に取って見たい衝動にかられました。

会場内では武井武雄について解説された映像も上映されていて、展示では見えなかった本の中身を少しだけ見ることができました。夏には大阪高島屋、石川県小松市立宮本三郎美術館でも開催されるそうです。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 講座 前向き子育てプログラム「子どもと絵本を楽しむ」

絵本の選び方や楽しみ方について学びます。年齢に応じて楽しめる絵本の紹介もします。

日 時：6 月 1 日(日) 午後 2 時 30 分～3 時 30 分

会 場：ビッグバン内資料室 (堺市南区茶山台)

講 師：土居安子(大阪国際児童文学振興財団 主任専門員)

定 員：15 名(申込先着順)

参加費：無料

※ 受講中、子どもはプール学院の学生と一緒にビッグバン内で遊びます。

主 催：大型児童館ビッグバン 子育て担当

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「ＹＯ！この本読んだ？」で紹介しました『赤毛のアン』（2008年2月改訳版）を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.45プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は6月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

クラウス・コルドンの「ベルリン三部作」を読んでいます。第一次世界大戦から第二次大戦までのベルリンを舞台にした大作です。私がこれまで知っている太平洋戦争と同じ情景が描かれていたことで、再認識したこと2点。戦時下、極限状態にあって人間の愛と残忍性は、洋の東西を問わないということ。そして、ヒトラーをヒトラーにしたのは国民だという思いです。『路上のストライカー』（マイケル・ウィリアムズ）もそうでしたが、海外の児童文学は重いなあ……。 (A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
